

## 問題 I

以下の問題文の空欄 (1) (2) から (15) (16) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部 (ア) (イ) (ウ) に関する設問 1, 設問 2, 設問 3 に答えなさい。

中華人民共和国を構成する少数民族地域の歴史を概観してみよう。

パミール高原以東の中央アジア地域における遊牧帝国の原型は、前漢の武帝との間で苛烈な戦争を繰り広げた匈奴である。その後、6 世紀中ごろには突厥が柔然を倒して (1) (2) と称し、8 世紀中ごろには、突厥を滅ぼしたウイグルが台頭し、唐や東ローマ帝国との交易により、強勢を誇った。唐が751年、(3) (4) の戦いでアッバース朝イスラーム軍に大敗し、西域経営から手を引くや、ウイグルは、西域をめぐり、<sup>(ア)</sup>吐蕃と戦いを繰り広げたが、840年、内乱と (5) (6) の攻撃により崩壊した。トルコ系初のイスラーム王朝として、東西トルキスタンを支配した (7) (8) 朝は、崩壊により西遷したウイグルの一派が関与してつくられたといわれる。その後、この地域は、モンゴル帝国の支配下に入る。この時代には、領域内に (9) (10) と呼ばれる交通制度が整備されたため、東西の貿易は活性化し、ユーラシア諸世界の一体化が進んだ。17世紀には、ジュンガル部がオアシス諸都市を征服し、この地を支配したが、清との戦いに敗れ、1758年に滅亡した。19世紀後半になると、東トルキスタン各地で清の統治に対する反乱が発生し、一時期 (11) (12) がカシュガル=ハン国をうち立て、イギリス、ロシアの承認を得て強勢となったが、1878年、(13) (14) 率いる清軍により鎮圧された。すでに、<sup>(イ)</sup>ロシアの支配下にあったイリ地方についても、1881年に結ばれた条約によって清に返還された。これを受け、清は1884年に新疆省を設置し、他の省と同様の統治を実施した。その後は、清朝の版図を引き継いだ中華民国に属しながらも、漢民族の指導者により半独立的な支配が行われ、中華人民共和国に編入されるに至った。

このように、中華人民共和国は、多様な <sup>(ウ)</sup>宗教的・文化的背景をもつ多民族国家として誕生した。(15) (16) 政権は2000年から、経済発展の立ち遅れた西部地域に投資を優先的に振り向ける西部大開発プロジェクトを実施し、少数民族の不満の解消を図った。しかし、少数民族問題は依然として国民統合の不安定要因となっている。

### 〔語群〕

- |                |            |             |           |
|----------------|------------|-------------|-----------|
| 01. アルプ=アルスラーン | 02. イブソス   | 03. ウルグ=ベク  | 04. エフタル  |
| 05. 袁世凱        | 06. 温家宝    | 07. 可汗      | 08. カラ=ハン |
| 09. カリフ        | 10. 契丹     | 11. キルギス    | 12. 江沢民   |
| 13. 胡錦濤        | 14. 胡耀邦    | 15. ササン     | 16. 左宗棠   |
| 17. サーマーン      | 18. サライ    | 19. ザンジュ    | 20. ジズヤ   |
| 21. ジャムチ       | 22. シャー=ルフ | 23. 習近平     | 24. 章炳麟   |
| 25. ジンミー       | 26. 西夏     | 27. セルジューク  | 28. セレウコス |
| 29. 单于         | 30. 鮮卑     | 31. 曾国藩     | 32. タラス河畔 |
| 33. チャンドラ=ボース  | 34. ティマール  | 35. パーニーパット | 36. ヒジュラ  |
| 37. マンジケルト     | 38. ヤクブ=ベク | 39. 李鴻章     | 40. 緑営    |

設問 1

下線(ア)の国があった地域に関わる歴史について、以下の(a)から(f)の文章の中から、誤りを含む文章の組み合わせをひとつ選び、その番号を 

(17)	(18)
------	------

 にマークしなさい。

- (a) 吐蕃と唐の抗争に乗じ、チベット=ビルマ系ロロ人が主体となって建国された南詔は、8～9世紀に最盛期を迎えた。
- (b) フビライ=ハンは、この地域の仏教を信奉し、サキヤ派のパスパに、元朝の仏教を総攬する地位を与えた。
- (c) 韃靼(タタール)のアルタン=ハンは、同地域の宗教の宗派のうち、ツォンカパによって創始されたゲルク派に帰依した。
- (d) 雍正帝から帝位を引き継いだ乾隆帝は、ダライ=ラマを追放し、チベットを理藩院の支配下に置いた。
- (e) ダライ=ラマ13世によるこの地域の独立宣言に先立って内モンゴルは独立を宣言し、1924年に社会主義国となった。
- (f) ダライ=ラマ14世は1959年にインドに亡命し、中華人民共和国で天安門事件が起こった年にノーベル平和賞を受賞した。

誤りを含む文章の組み合わせ

- [01] (a) (b)
- [02] (a) (c)
- [03] (a) (d)
- [04] (b) (c)
- [05] (b) (e)
- [06] (b) (f)
- [07] (c) (d)
- [08] (c) (e)
- [09] (d) (e)
- [10] (d) (f)
- [11] (e) (f)

設問 2

問題文中の下線部(イ)に関連し、19世紀後半のロシア帝国の内政と国際関係について、以下の(あ)から(か)の文章の中から、誤りを含む文章の組み合わせをひとつ選び、その番号を 

(19)	…	(20)
------	---	------

 にマークしなさい。

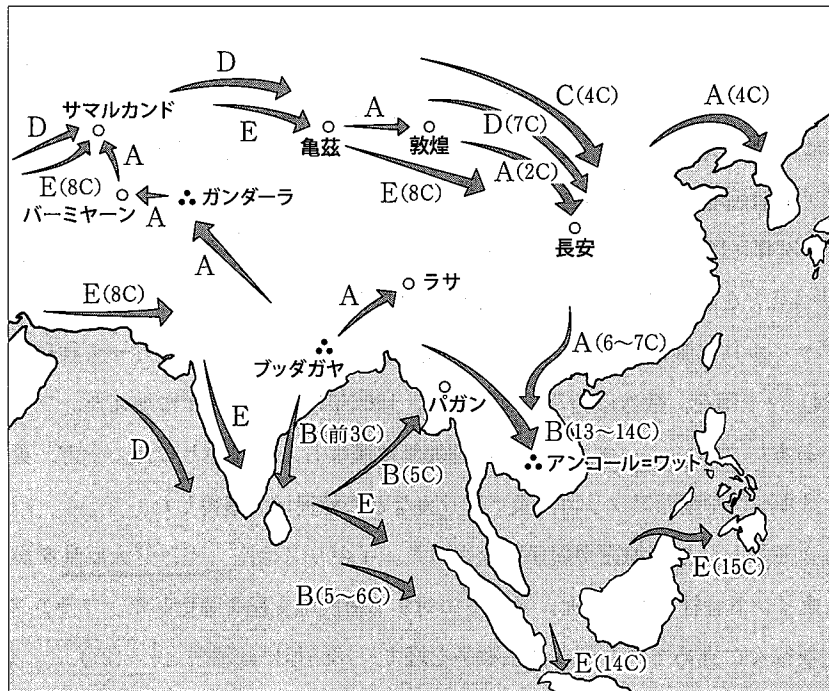
- (あ) 『父と子』と題する著作で農奴制を批判したことにより、著者のトゥルゲーネフは逮捕・投獄されたが、同作品は、アレクサンドル 2 世の農奴解放令に影響を与えた。
- (い) ムラヴィヨフは、初代東シベリア総督として、清朝とアイグン条約、北京条約を締結し、黒竜江以北、ウスリー川以東にまでロシアの領土を拡張することに成功した。
- (う) 日露和親条約では、千島列島のエトロフ島以南を日本領、樺太を日本人とロシア人の雑居地域とすることが定められたが、1875年の樺太・千島交換条約で、ロシアはウルップ以北の千島列島を日本領とする代わりに、樺太全島を自国領とした。
- (え) ロシアが併合したコーカンド=ハン国、および保護国としたブハラ=ハン国、ヒヴァ=ハン国は、いずれも、ウズベク人によるスンナ派のイスラーム国家である。
- (お) サン=ステファノ条約によりロシアの保護下におかれたブルガリアは、ベルリン条約により領土が縮小されるとともに、オーストリアの統治下に編入された。
- (か) アレクサンドル 3 世は、1891年、シベリア鉄道の建設に着手し、その資本を提供したフランスと同盟を結び、三国同盟に対抗した。

誤りを含む文章の組み合わせ

- [01] (あ) (い)
- [02] (あ) (え)
- [03] (あ) (お)
- [04] (い) (う)
- [05] (い) (お)
- [06] (い) (か)
- [07] (う) (え)
- [08] (う) (お)
- [09] (う) (か)
- [10] (え) (お)
- [11] (え) (か)

設問 3

問題文中の下線部(ウ)に関連し、各宗教の主な伝播のルートを描いた下の地図の矢印 A, B, C, D, E が示す宗教の組み合わせのうち、最も適切な組み合わせをひとつ選び、その番号を (21) (22) にマークしなさい。なお、矢印に付した ( ) 内には伝播したおおよその時代を示した。



※『新詳世界史B』(帝国書院、2012年) 57頁の地図をもとに作成。

組み合わせ

- |                                |                     |                |
|--------------------------------|---------------------|----------------|
| [01] A 大乘仏教<br>D ゾロアスター教       | B 上座部仏教<br>E イスラーム教 | C ネストリウス派キリスト教 |
| [02] A 大乘仏教<br>D ネストリウス派キリスト教  | B 上座部仏教<br>E イスラーム教 | C ゾロアスター教      |
| [03] A 大乘仏教<br>D イスラーム教        | B 上座部仏教<br>E ヒンドゥー教 | C マニ教          |
| [04] A 上座部仏教<br>D ゾロアスター教      | B 大乘仏教<br>E イスラーム教  | C ネストリウス派キリスト教 |
| [05] A 上座部仏教<br>D ネストリウス派キリスト教 | B 大乘仏教<br>E ヒンドゥー教  | C ゾロアスター教      |
| [06] A 上座部仏教<br>D イスラーム教       | B 大乘仏教<br>E ヒンドゥー教  | C マニ教          |

## 問題 II

以下の問題文の空欄 (23) (24) から (31) (32) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問(ア) (33) (34) から(エ) (39) (40) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。(オ) (41) (42) と(カ) (43) (44) の設問にも答えなさい。

19世紀後半になると、日米欧では、従来の石炭に加え、<sup>(ア)</sup> 新たなエネルギー源として石油や電力の利用が進んで重化学工業が発展し、いわゆる第2次産業革命が起こった。列強は、資源や農産物の供給地あるいは商品や資本の輸出先とするためアフリカやアジアで植民地の獲得競争を展開した。

アフリカでは、1884～85年に開催されたベルリン会議を契機にヨーロッパ列強による分割が本格化し、20世紀初頭までに、<sup>(イ)</sup> エチオピアとリベリアを除くアフリカの大部分が列強の植民地となった。たとえば、イギリスは、南アフリカ戦争の結果、トランスヴァール共和国とオレンジ自由国を植民地としたほか、現在のガーナ共和国の内陸部に17世紀からあった (23) (24) 王国を、数次にわたる戦争の末、1902年に自らの領土に加えた。フランスも、ギニアに存在したイスラーム帝国である (25) (26) 帝国を1898年に滅ぼし、植民地とした。一方、英仏に遅れてアフリカに進出したドイツは、カメルーンや南西アフリカ、東アフリカなどの植民地を獲得した。

アジアでも、列強による激しい植民地獲得競争がなされた。イギリスは、<sup>(ウ)</sup> インド大反乱を契機に、それまでインドを実質上統治していた東インド会社を解散させ、インドに対する植民地支配を強化した。フランスも、1860年代からインドシナ半島の植民地化を徐々に進めていたが、清仏戦争を経て、1885年には清国と (27) (28) を締結し、ベトナムの保護国化を清国に承認させた。そして、1887年には、ベトナムとカンボジア地域を統括するフランス領インドシナ連邦が成立した。これらのヨーロッパ列強に遅れて植民地獲得競争に参加した日本も、伝統的に中国に朝貢してきた朝鮮(韓国)の植民地化を狙うようになり、1895年の下関条約によって清国の影響を排除し、その後徐々に事実上の支配を強化していった。最終的には、1910年の韓国併合に関する条約によって韓国の植民地化が完成した。

このように20世紀初頭には、世界は列強によってほぼ分割され尽くされてしまったが、宗主国に対する現地の人々の抵抗が過激化することもあった。たとえば、東アフリカではドイツに抵抗する (29) (30) が起こったほか、朝鮮では1919年に日本からの独立を求める三・一運動が起こっている。

列強間の戦いである第1次世界大戦および第2次世界大戦の後、植民地は次々と独立を獲得した。特に、「アフリカの年」とも呼ばれる1960年にはアフリカで17もの国が独立するに至った。ガーナのエンクルマやギニア共和国の初代大統領である (31) (32) などはアフリカ民族主義運動の指導者としてアフリカ諸国の連帯と反植民地主義を強力に推し進めた。

しかし、これらの国々の国境や境界線は、現地の人々の生活を無視して旧宗主国や列強の力関係で取り決められることが多かった。また、旧植民地諸国では、独立後の政治や経済も不安定であった。そのため、クーデタや要人殺害なども頻繁に起こったほか、部族対立や東西冷戦などの影響を受けた大規模な紛争が発生することも少なくなかった。特に、朝鮮戦争、<sup>(エ)</sup> コンゴ動乱、ベトナム戦争、ビアフラ戦争などは、内戦に旧宗主国の思惑や東西対立が複雑に絡み合い、多数の死傷者が出る激しい戦闘や虐殺を伴うものであった。

その後、1970年代以降、旧植民地諸国の中から、加工業や中継貿易の育成に成功した新興工業経済地域と呼ばれる国や地域が出現した。しかし、多くの旧植民地諸国は、人口の爆発的増加や首都への人口集中、部族対立や内戦の危険性を抱えており、植民地支配に起因する様々な問題に対する十分な解決がなされていないのが現状である。

設問

(ア) ガソリンを燃料とする内燃機関を1883年に発明し、1886年にはこれを搭載した四輪自動車を実用化した技術者は誰か。 (33) (34)

(イ) 1896年のアドワの戦いによってイタリア軍を破り、エチオピアの独立を守ったエチオピアの皇帝は誰か。 (35) (36)

(ウ) 1857年に始まったインド大反乱に際しては、女性も積極的な役割を担った。北インドの小国の王妃でありながら、反乱の指導者となって命を落とし、今日のインド国民の間でも英雄として人気が高い人物は誰か。 (37) (38)

(エ) 1960～65年のコンゴ動乱の渦中で殺害されたコンゴの首相は誰か。 (39) (40)

(オ) 次のうちイギリスによるアフリカの植民地化にかかわる出来事を起きた順番に並べたものとして正しいものをひとつ選び、その番号を (41) (42) にマークしなさい。

- [01] ウラビーの反乱 → 南アフリカ戦争 → ケープ植民地の領有 → ファショダ事件 → ゴードンの戦死
- [02] ウラビーの反乱 → ゴードンの戦死 → 南アフリカ戦争 → ケープ植民地の領有 → ファショダ事件
- [03] ケープ植民地の領有 → ファショダ事件 → ゴードンの戦死 → ウラビーの反乱 → 南アフリカ戦争
- [04] ケープ植民地の領有 → ウラビーの反乱 → ゴードンの戦死 → ファショダ事件 → 南アフリカ戦争
- [05] ゴードンの戦死 → ウラビーの反乱 → ファショダ事件 → 南アフリカ戦争 → ケープ植民地の領有

(カ) 次のうち日本による朝鮮(韓国)の植民地化にかかわる出来事を起きた順番に並べたものとして正しいものをひとつ選び、その番号を (43) (44) にマークしなさい。

- [01] 第1次日韓協約締結 → ポーツマス条約締結 → 韓国統監府の設置 → 伊藤博文暗殺 → 朝鮮総督府の設置
- [02] 第1次日韓協約締結 → 韓国統監府の設置 → ポーツマス条約締結 → 伊藤博文暗殺 → 朝鮮総督府の設置
- [03] ポーツマス条約締結 → 韓国統監府の設置 → 第1次日韓協約締結 → 伊藤博文暗殺 → 朝鮮総督府の設置
- [04] ポーツマス条約締結 → 第1次日韓協約締結 → 韓国統監府の設置 → 朝鮮総督府の設置 → 伊藤博文暗殺
- [05] 韓国統監府の設置 → ポーツマス条約締結 → 第1次日韓協約締結 → 朝鮮総督府の設置 → 伊藤博文暗殺

〔語群〕

- |                 |                |                 |                |
|-----------------|----------------|-----------------|----------------|
| 01. アシャンティ      | 02. アルプケルケ     | 03. ウラビーの反乱     | 04. カセム        |
| 05. カネム=ボルヌー    | 06. 江華島条約      | 07. 黄浦条約        | 08. サダト        |
| 09. サモリ         | 10. ザンジバル      | 11. サン=ドマングの蜂起  | 12. シヴァージー     |
| 13. ズールー        | 14. セク=トゥーレ    | 15. ソンガイ        | 16. ダイムラー      |
| 17. タゴール        | 18. ダホメ        | 19. ディーゼル       | 20. 天津条約       |
| 21. トウパク=アマルの蜂起 | 22. ナギブ        | 23. ナセル         | 24. 南京条約       |
| 25. ハイレ=セラシエ    | 26. バネルジー      | 27. ビブン         | 28. フォード       |
| 29. プガンダ        | 30. 北京条約       | 31. ベナン         | 32. ヘルツホルム     |
| 33. マジ=マジの蜂起    | 34. マフディーの反乱   | 35. マリ          | 36. マルコーニ      |
| 37. マンサ=ムーサ     | 38. ムスタファ=カーミル | 39. ムハンマド=アブドゥフ | 40. ムハンマド=アフマド |
| 41. ムハンマド=アリー   | 42. ムムターズ=マハル  | 43. メネリク 2 世    | 44. ラクシュミー=パーイ |
| 45. ルムンバ        |                |                 |                |

### 問 題 Ⅲ

以下の問題文の空欄 (45) (46) から (57) (58) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問(ア) (59) (60) から(エ) (65) (66) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

連邦制国家は、高度な自治権を持つ複数の州などが単一の主権のもとに結合して構成する国家である。連邦制国家における連邦(中央)政府と州(地方)政府の権限分担の仕組みは、各国の歴史や文化を反映した様々な形態がある。ここでは、北アメリカ大陸の2つの連邦制国家—アメリカ合衆国とメキシコ合衆国—の誕生と発展を比較してみよう。

イギリスの北アメリカ大陸における13植民地は、17世紀から18世紀前半にかけて、国王の勅許を受けて建設された。各植民地の政治形態はその成立ちによって異なっていたが、いずれも、<sup>(ア)</sup>植民地議会による自治が行われていた。イギリスからの独立を宣言した13植民地は、当初は連合規約による緩やかな連合を形成していたが、1787年に憲法制定会議を開催し、新たな連邦政府の体制について議論を行った。同会議では、強力な連邦政府を志向する連邦派と、各州の自治権や独立性を尊重しようとする反連邦派(州権派)が対立したが、両者の妥協を経てアメリカ合衆国憲法が制定された。

アメリカ合衆国憲法が発効し連邦政府が発足した後も、北部を主な支持基盤とする連邦派と、南部を主な支持基盤とする反連邦派の対立は依然として続いた。例えば、初代副大統領と第2代大統領を務めた (45) (46) や、初代財務長官を務めた (47) (48) は連邦派に属していたが、初代国務長官と第3代大統領を務めた人物は反連邦派に属していた。その後、北部と南部の対立には奴隷制の是非が争点に加わり、奴隷制拡大反対論者であったリンカンが大統領に当選すると、南部11州は相次いで連邦からの離脱を宣言してアメリカ連合国を樹立し、(49) (50) を初代大統領に選出した。これに対しリンカンは、州の連邦離脱は憲法上無効であると主張して連邦制維持に固執した。この対立が南北戦争へと繋がることになる。

南北戦争後の19世紀後半から、アメリカ合衆国の経済は商工業を中心に急速な発展を遂げ、全国的市場や、<sup>(イ)</sup>巨大な独占資本の形成、労働者階級の増加や都市への人口流入など、経済や社会の構造に変化が生じた。これらに対処するため、連邦政府は自らの権限拡大を図った。その例となるのは、反トラスト法の制定や、1930年代のニューディール政策である。後者の柱は、労働者保護・社会福祉立法や、<sup>(ウ)</sup>公共事業への財政支出であった。さらに、1960年代のジョンソン大統領の時代には、公民権法や、<sup>(エ)</sup>環境保護分野でも連邦法の制定が行われるようになった。このように、アメリカ合衆国において、連邦政府の権限は、憲法の枠組みの範囲内で徐々に拡大される傾向にある。

隣国メキシコ合衆国に目を転じると、連邦制の実態はアメリカ合衆国と比べ、より中央集権的と評されている。スペインは、独立前のメキシコを含む北中米・カリブ海やフィリピン等の広大な領域を、ヌエバ＝エスパニア副王領として統治していた。メキシコは、1810年に聖職者 (51) (52) の指導による蜂起を経て、1821年に独立を達成したが、その後約100年近く、保守派(中央集権派)と自由主義派(連邦派)の対立や、外国の干渉による混乱が続き、帝政の時代も存在した。1910年に起こったメキシコ革命の指導者の1人である (53) (54) は、後に大統領に就任し、労働基本権の明記や石油資源の国有化など、革命の理念を盛り込んだ1917年憲法を公布した。この憲法は連邦制を採用するが、メキシコ革命の中から発展した政党が長期間政権を担当したことは、連邦政府の権限が強大化する一因となった。この政党は、1929年の結党時は国民革命党と称していた。同党から立候補した (55) (56) は、1934年に大統領に就任後、1917年憲法が定めた石油資源国有化を実行に移した。国民革命党は、1938年にメキシコ革命党に改称された後、1946年にはさらに (57) (58) に改称され、2000年まで70年以上政権を担当した。

このように、アメリカ合衆国とメキシコ合衆国の誕生と発展の歴史には大きな違いがあり、そのことが連邦制の実態の相違となって現れている。

設問

(ア) 「代表なくして課税なし」の理念に基づく、ヴァージニア植民地議会における印紙法への反対決議の主導や、後に同植民地のイギリス本国への武力抵抗を主張し「自由か、死か」の一節で知られる演説を行った人物は誰か。

(59) (60)

(イ) 鉄道会社への投資で成功したアメリカ合衆国の投資銀行家は、鉄鋼業にも進出し、いくつかの鉄鋼会社を合併させて1901年にUSスチール社を設立した。同社は、一時、アメリカ合衆国における鉄鋼生産の約3分の2を支配した。この投資銀行家は誰か。

(61) (62)

(ウ) 論文『雇用、利子および貨幣の一般理論』を発表し、自由放任による市場の自律的調整に代わり、政府の財政政策や金融政策による有効需要の創出を説いた経済学者は誰か。

(63) (64)

(エ) 1962年に出版された、環境問題に警鐘を鳴らした先駆的文献である『沈黙の春』の著者である海洋学者は誰か。

(65) (66)

〔語群〕

- |                 |                  |                   |
|-----------------|------------------|-------------------|
| 01. イダルゴ        | 02. ヴアルガス        | 03. ヴァンダービルト      |
| 04. カーネギー       | 05. カランサ         | 06. カルデナス         |
| 07. グラント        | 08. ケインズ         | 09. サパタ           |
| 10. サミュエル＝アダムズ  | 11. サミュエルソン      | 12. サン＝マルティン      |
| 13. ジェファソン＝デヴィス | 14. シケイロス        | 15. シモン＝ボリバル      |
| 16. 社会革命党       | 17. 社会民主党        | 18. ジャクソン         |
| 19. ジョン＝アダムズ    | 20. ジョン＝ジェイ      | 21. ジョン＝ブラウン      |
| 22. 人民革命党       | 23. ストロース        | 24. 制度的革命党(制度革命党) |
| 25. ディアス        | 26. デューイ         | 27. トマス＝ジェファソン    |
| 28. トマス＝ペイン     | 29. ハミルトン        | 30. パトリック＝ヘンリ     |
| 31. ピノチェト       | 32. ビューレン        | 33. ビリャ           |
| 34. ファレス        | 35. フランクリン       | 36. ベルクソン         |
| 37. マッキンリー      | 38. マックス＝ヴェーバー   | 39. マディソン(マディソン)  |
| 40. マデロ         | 41. マルベリー(マーベリー) | 42. ミランダ          |
| 43. 民主革命党       | 44. モルガン(モーガン)   | 45. モンロー          |
| 46. ラス＝カサス      | 47. ラッセル         | 48. ラ＝ファイエット      |
| 49. リー          | 50. リカード(リカルド)   | 51. レイチェル＝カーソン    |
| 52. ロスチャイルド     | 53. ロックフェラー      | 54. ローリ           |
| 55. ワトソン        |                  |                   |

#### 問 題 IV

以下の問題文の空欄 (67) (68) から (77) (78) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (79) (80) から (イ) (81) (82), および (エ) (85) (86) から (オ) (87) (88) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。下線部に関する設問 (ウ) (83) (84) については、最も適切な語句の組み合わせをひとつ選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

グローバル化に伴って指摘されることの多くなった多文化の共存という問題を、歴史上、国家はどう処理してきたのだろうか。またそこに、どういう問題が生じたのであろうか。東地中海世界を中心に、600年以上にわたって「オスマンの平和(パックス・オトマニカ)」と呼ばれる秩序を実現した、オスマン帝国を例にして考えてみよう。

西アナトリアに移住してきたトルコ人のおこしたオスマン朝が、バルカン半島に進出したのは、14世紀半ば、ムラト1世の時代である。ムラト1世は、この半島に居たセルビアなどの勢力を1389年 (67) (68) の戦いで破る。ここにオスマン朝は、キリスト教徒の多いヨーロッパ諸民族をも支配下に収める帝国となる足がかりを得たのである。

バルカン半島で蓄えた力を背景にして、オスマン朝はあらためてアナトリアに支配権を広げてゆく。その過程でオスマン朝は、異なる民族や宗教に由来する多くの文化を共存させるための諸制度を整備していった。その代表例は、軍人や官吏の登用制度に見られる。これもムラト1世の時代、オスマン朝では、領内に住むキリスト教徒の少年を (69) (70) という徴用制度で集めることが始まる。徴用された少年たちは改宗させられ、訓練を受けたうえで、国家の要職に就いた。このようにオスマン帝国は、国家の中枢を担う人材の少なくとも出自に対しては、開かれた姿勢をとっていたのである。

ところで、このようなオスマン帝国の台頭を、キリスト教世界が脅威として本格的に受けとめるようになったのは、14世紀の終わりになってからである。すでに亡くなっていた宗教改革の先駆者 (71) (72) を改めて異端と断じたことで知られるコンスタンツ公会議を招集した神聖ローマ皇帝ジギスムントはハンガリー王時代、十字軍を組織してオスマン帝国に立ち向かったが、バヤジット1世はこれを一蹴する。その後スルタンに即位したメフメト2世は、コンスタンティノープルを攻略した。コンスタンティヌス帝の遷都から数えて約 (73) (74) 年後のことである。これらの出来事は、ヨーロッパ人に衝撃をもって受けとめられることとなる。

オスマン帝国が最盛期を迎えたとされるのは、16世紀前半スルタンに即位したスレイマン1世の時代である。遠征に<sup>(ア)</sup>よって飛躍的に広がった領地に対して彼は、支配や徴税に関するスルタンの勅令を (75) (76) として整備することで、効果的に統治を行うことができた。そうした政治的力量をスレイマン1世は外交面でも発揮する。同時代のヨーロッパの国際政治がヴァロワ家とハプスブルク家との王朝間抗争を軸にして動いていたことを踏まえ、スレイマン1世はバルカン半島以西への進出を図るべく、フランスと同盟関係を結んだ。このことは、宗教改革運動にも影響をおよぼす。神聖ローマ皇帝カール5世は、カトリックの守護者という意識を強く抱いていたにもかかわらず、<sup>(イ)</sup>プロテスタントに対する弾圧を徹底できなかった。オスマン帝国の軍隊が迫ってきていたため、カール5世は、神聖ローマ帝国内のプロテスタント諸侯の協力を広く求める必要があったからである。

このように、場合によっては宗教の問題を後退させて政治の論理を貫こうとしたオスマン帝国は、近代初期のヨーロッパにも大きな影響を与えた。しかし時代が進むにつれ、他のアジア諸国と同じくオスマン帝国は、ヨーロッパ列強の進出に苦しみこととなる。帝国の内部改革を求める声は高まり、19世紀の半ばになると、行政・司法・軍事等の改革を訴えるギュルハネ勅令がスルタン (77) (78) によって発布された。ただし、その勅令においても、信仰や民族の区別なく国民の生命や財産を保障することは目指されている。領内の多文化共存を図るこの帝国の指針は、この時点でも貫

かれていたといえよう。

しかし、列強に対抗できる強固な政治体制を確立しようとする動きは、オスマン帝国の国民国家化を促すこととなった。第一次世界大戦で敗戦国となったオスマン帝国は、セーヴル条約によって領土分割を余儀なくされる。領内にいた  
(ツ)  
(エ) 非トルコ系諸民族の自立の動きも高まる中、トルコ国民の結集を図り国民議會を主導したムスタファ＝ケマルはアンカラに政府を組織し、1923年にはローザンヌ条約を連合国と結んで、トルコの独立を守り通した。彼はオスマン帝国を、トルコ民族主義にもとづく世俗的で中央集権的なトルコ共和国へと作りかえ、政教分離や女性の解放を実現する。だがその過程で、もともと国境を越えていたムスリムのネットワークが、国民国家の境界線によって分断されるようになった  
(オ) ことも否めないのである。

設問

(ア) この時代、イスタンブルには雄大華麗なスレイマン=モスクが建立されたが、これを設計した建築家は誰か。

(79) (80)

(イ) 1529年、カール5世が主催した帝国議会において、皇帝の宗教政策に対し、ルター派の諸侯や都市が抗議文を提出したことから、プロテスタントという新教徒の総称が生まれた。この帝国議会が開催された都市はどこか。

(81) (82)

(ウ) 次に示す地図は、セーヴル条約による小アジアおよび西アジアの分割を描いたものである。



※加藤博著『イスラーム世界の危機と改革』(山川出版社, 1997年) 42頁の地図をもとに作成。

(A) から (D) に入る国名の組み合わせとして正しいものを、次の中から選びなさい。 (83) (84)

組み合わせ

	A	B	C	D
[01]	イギリス	フランス	イタリア	ギリシア
[02]	イギリス	フランス	ソ連	ギリシア
[03]	イギリス	フランス	イタリア	ソ連
[04]	イギリス	フランス	ギリシア	ソ連
[05]	フランス	イギリス	イタリア	ギリシア
[06]	フランス	イギリス	ソ連	ギリシア
[07]	フランス	イギリス	イタリア	ソ連
[08]	フランス	イギリス	ギリシア	ソ連

(エ) 現在のトルコ・シリア・イラク・イランなどにまたがる山岳地帯を拠点とする民族集団の自治区の建設が、セーヴル条約では約束されていたにもかかわらず、ムスタファ＝ケマルの新生トルコ共和国はこれを認めようとしなかった。ペルシア語系の言語を話し、いまだ独立国家を形成できずにいる、この民族集団の名は何か。

(85) (86) 人

(オ) イスラーム諸国の政治的協力と連帯を強化することを目的に結成されているイスラーム協力機構には、2012年現在、50数カ国が正式加盟している。しかし、1億6000万ものムスリムがいるにもかかわらず、パキスタンが阻止しているため、この国際機関への参加を果たせずにいる国はどこか。 (87) (88)

[語群]

- |                   |                 |                 |
|-------------------|-----------------|-----------------|
| 01. 1020          | 02. 1120        | 03. 1220        |
| 04. 1320          | 05. 1420        | 06. アウグスブルク     |
| 07. アフガニスタン       | 08. アブデュル＝ハミト2世 | 09. アブデュル＝メジト1世 |
| 10. アブド＝アッラフマーン3世 | 11. アベラール       | 12. アルメニア       |
| 13. イェニチェリ        | 14. イブン＝シーナー    | 15. インド         |
| 16. インドネシア        | 17. ウィクリフ       | 18. ヴィッテンベルク    |
| 19. ウィリアム＝オブ＝オッカム | 20. ヴォルムス       | 21. ウンマ         |
| 22. ガザーリー         | 23. カーヌーン       | 24. クルド         |
| 25. コソヴォ          | 26. シュパイアー      | 27. ジョルダノー＝ブルーノ |
| 28. スィナン(シナン)     | 29. セリム1世       | 30. タミル         |
| 31. タンジマート        | 32. チューリヒ       | 33. ティマール       |
| 34. デウシルメ         | 35. ニハーヴァンド     | 36. バスク         |
| 37. ハラージュ         | 38. バリード        | 39. バングラデシュ     |
| 40. フィルドゥシー       | 41. フス          | 42. プレヴェザ       |
| 43. フワーリズミー       | 44. マフムト2世      | 45. マレーシア       |
| 46. ミスル           | 47. モハーチ        | 48. ユダヤ         |
| 49. ラマダーン         | 50. レパント        |                 |